

発表
7題

今年も看護研究に取り組みました。

「重症室に入院する患者の家族が看護師に望むこと」

急性期の患者様の家族から頂いた意見や言葉を受けて患者様の家族が看護師に何を望んでいるのかアンケート調査を実施しました。その事により、家族のニーズを取り入れ精神的ケアをするための病態知識やコミュニケーション技術の不足を改めて考える事ができました。

2E Aチーム
和田 柴原 一色 黒田加 松浦美 堀川

研究取り組みメンバー

患者様への情報提供が、安心した入院生活につながるか！

一日のスケジュール表の活用を試みてー
Bチームは、クリニカルパスのないBチームの患者様に対し、クリニカルパスを使用しなくても、一日のスケジュール内容を提供していくことで、患者様が安心して入院生活が送れたかどうかを検証してみようと考え、スケジュール画面の提示をし、説明を加える方法で行った。

2E Bチーム
名倉 奥野 平出 岡本 杉山 栗田 石黒 落合

研究取り組みメンバー

「脳血管障害を持った尿失禁患者の排尿自立に繋がるアプローチを考える」

脳血管障害を持つ患者の尿失禁を問題と捉え、排尿パターンに基づいた排尿誘導計画を立案し、5事例の患者に対して援助を行った。排尿自立できた、できないはあったが、5事例を通して尿失禁の種類を判別すること・排尿動作の変化を捉えることが大切であると学べた。

2E Cチーム
長尾 黒田治 山岸 佐野 永井 伊藤 萩原 堀内 松浦時 小野寺

研究取り組みメンバー

フローシートによる外来看護記録の検討

第一外来
短時間の外来診療や煩雑な外来看護業務の中で簡潔に記録できるフローシートを活用できないかと考え研究テーマとした。特に状態観察の必要となる化学療法を受ける患者様のフローシートを作成した。フローシートの活用は短時間で継続的に記載でき外来記録として有効に利用できた。

研究取り組みメンバー
松浦美 木又 齊藤 溝口 西村

研究取り組みメンバー

会議における小集団活動の効果の検証

副師長・主任
副師長・主任会議に小集団活動を取り入れることにより会議の活性化がはかれるのではないかと考え取り組んだ。結果は、各グループの活性化ははかれたが、全体の会議としての議事内容の共有化が薄いと考察を得た。今後の会議のモチ方向についての検討が必要と考える。

研究取り組みメンバー
柴田 鈴木智 久保田

研究取り組みメンバー

新人看護師の気持ちの検証 (POMSを活用して)

研究グループ
新人看護師がどのような気持ちの変化を経て職場適応に至っているのかPOMSの気分尺度を活用して検証した。当院の傾向として緊張・不安、抑うつ・落ち込み疲労混乱が継続的に高い値を示している。個人としては様々な要因があり、集団教育以外にも個別に関わる必要性を感じた。

研究取り組みメンバー
小島 服部 杉山

研究取り組みメンバー

外来での敬称に対する患者の反応

第一外来
アンケートによる実態調査
外来では、患者様に「やさしく丁寧な呼びかけをする」ことを目的に、名前に様をつけて呼んでいる。外来受診を気持ちよく受けて頂くために、アンケート調査を実施した。今後、検討材料になればと思い、まとめた。

研究取り組みメンバー
村山 河本 溝垣 杉浦ゆ 落合

研究取り組みメンバー



編集後記

今年台風の当たり年でよく上陸しました。何度台風の中夜勤に出勤した事か。中越地震の被害にも改めて東海地震への対策を考えさせられました。備えあれば憂いなし、私たちの取り組み課題は山積です。

(松)